

農家は収穫の時期だけが忙しいわけではありません。農産物はたくさんの作業の積み重ねで作られています。山梨県で多く作られている農産物のできるまでを見てみましょう。

農産物には農家の愛情がいっぱい詰まっています

みなさんは、山梨県のおいしい果物や野菜、お米ができるまでに農家がどんな作業をしているのか知っていますか。また、農作物を育てるために水がどんなに大切なかを知っていますか。農家の人たちの苦労を知り、あらためて「いただきます」「ごちそうさま」の意味を考えてみましょう。

米 春、米作りは、種もみをまいて苗を育てるところから始まります。苗が15cmから20cmに育つ頃、田んぼに肥料をまいて、用水路から水を引き、トラクターや耕運機を使って土をやわらかくし、平らにしたら(代かき)、いよいよ田植えです。山梨県では5月から6月にかけて田植えのシーズンを迎えます。田植え後は、毎日、水の管理を行い、稲の伸び具合をみて、肥料をあえます。田植えから1か月半くらいたった頃、1週間くらい水を抜き、土を乾燥させる中干しを行います。これは、根の成長を助け、より丈夫な稲にするためです。その後また水を引き、管理を続けます。稲の成長を助けるために草取りや病気・害虫から稲を守る消毒をします。8月頃、穂が出て小さな花が咲き、秋に稲穂が黄金色になると収穫を迎えます。刈り取った稲は乾燥させ脱穀し、精米すると「お米」になります。



▲田植えの様子



▲ジベレリン処理の様子



▲傘かけをしたぶどう

ぶどう ぶどうの作業は冬から始まります。この時期は、品質の良いぶどうを作るために、畑に肥料をまいたり、枝の数を整理する作業(剪定)をします。

春、ぶどうの樹は活動を始め、土の中の水分をたっぷり吸って発芽します。この時期に土が乾燥していると、いっせいに芽が出ず、伸び方に差が出てしまいます。この時期の水の管理はとても大切です。

初夏、芽は伸びて花が咲き実をつけます。この時期に「ジベレリン」という薬を使って「種なしぶどう」にしたり、房の数を少なくする作業(摘房)をします。続いて、ぶどうの粒が大きくなるよう粒の数を少なくする作業(摘粒)を行います。そして、雨風や病気から守るために一房ずつ袋や傘をかけます。

夏、気温が高くなる時期には、たくさんの水が必要になります。乾燥が続くと葉がしおれたり、実が大きくなりません。そのため、定期的に水をかけ、乾燥に注意します。そして、おいしく色づくのを待つようやく収穫です。



▲コンバインで稲刈りする様子



▲刈り取った稲を乾燥させます

トマト トマトは露地栽培やハウス栽培により1年中作られています。トマト作りは、苗作りから始まります。

4月の終わりから5月上旬にかけて、大きな葉が7~8枚になり、最初の花が咲き始めるころ、肥料をまいた土に苗を植えます。トマトは水のやりすぎを嫌うので、根元が乾いたら水をやります。大きな実を作るため、脇芽は出るたびに取ります。

やがて、昆虫などによって受粉がされると実をつけます。花が咲いてから40日から50日くらいで収穫できます。トマトの実は大きくなると、水分の変化により実が割れやすくなるため特に水の管理には注意します。トマトは南米ペルーの高原地帯が原産地のため、からっとした気候を好みます。日本のような高温多湿のところでは病気になりやすいため、露地栽培ではビニールで屋根をかけるなどして雨から実を守ります。農家は、トマトの成長に合わせた水の管理をしながらおいしいトマトを栽培します。



▲ビニールで屋根をかけたトマトを雨から守ります



脇芽を取る様子▶



いただきますとごちそうさま



みなさんが食べている果物や野菜、お米ができるまでにはたくさんの人たちが関わっています。食事の時にするあいさつ「いただきます」、「ごちそうさま」の意味をあらためて考えてみましょう。

「いただきます」は、食材を作ってくれた人や料理を作ってくれた人への感謝と食べ物への感謝の気持ちを表しています。

「ごちそうさま」は、漢字で書くと「御馳走様」となります。「馳走」はもてなすために食材を求めて走りまわる様子をあらわしています。食事を準備してくれた人への感謝を込めて「御馳走様」、「御馳走様でした」とあいさつするようになったのです。

農業には「水」が大事!

【扇状地・山間地域】

果樹栽培に適している畑は、水はけがよく、必要な時に十分な水が確保できることです。山梨県で果樹栽培が多く行われている扇状地は、水はけがよい一方で、十分な水を確保することが課題でした。そのため、昔の人は用水路を作り、大きな川から水を引いてきました。この用水路を「農業せぎ」と呼びます。みなさんの家の近くにもこうしたせぎがありますか。地域によっては今も、水量を管理する「水見当番」が残っています。

現在、峡東地域や中北地域などでは、灌がい施設が整備され、スプリンクラーにより必要な時に水をまけるようになっていきます。

【平野部】

山からの小さな川が集まり大きな河川となる平野部では、米や野菜が多く作られています。平野部では、昔、大雨が降ると河川がたびたび氾濫したため治水工事が行われてきました。釜無川の信玄堤や山梨市の万力林が残っています。

また、水資源の分配はもめごとの原因となりました。北杜市にある三分一湧水は、貴重な湧水を農業用水として利用するため、「堰」の真ん中に三角形の石を置くことで水を均等に三方に分けています。

そのほか、たびたび水害を起こした河口湖から「水無し村」と呼ばれた富士吉田市新倉(旧新倉村)まで掘った水路トンネル「河口湖・新倉掘抜」などが今も史跡として残っています。



▲畑のそばを流れる農業用水路



▲スプリンクラー



▲北杜市にある三分一湧水



▲信玄堤から見る釜無川

もぐもぐも農業新聞

2015年春号

JAグループ山梨

発行: JA山梨中央会
〒400-8530 甲府市飯田1-1-20
TEL055-223-3503 FAX055-220-1083
URL <http://www.ja-yamanashi.or.jp>
E-mail webmaster@ja-yamanashi.or.jp



どうなる、日本の食? と言うか、どうする?